

令和6年度 学校関係者評価書

1. 学校評価の年次報告について

- ①学校関係者評価委員会は5名の外部委員と10名の校内委員で構成している。今年度は6月・11月・3月と学期ごとに、年間3回開催した。
- ②学校評価に係わる各種アンケートによる情報収集は、年次計画通り実施できた。
- ③校長をはじめ、校内委員は、自己評価書の達成目標に基づいて外部委員に対して学校の現状や課題を誠実に報告することができた。
- ④外部委員の意見は、職員会議や運営委員会及び科会等において各教職員に復伝され、業務改善に努めた。

2. 学校関係者委員からの意見（3回分総括）

- ①学校が地域と連携するためには、やらなければならないことが多くあるが可能な限り取り組むことが大切である。ただし、無理をしてしまうと持続することが困難になるので、まずは地域の多くの方々と知り合い、交流を深めることから始めてみてはどうだろうか。
- ②高水高校は校則が厳しいことで知られていたが、現在はマンツーマンの指導を行い、面倒見の良い学校へと変わっている。このような変化に対する現在の保護者の満足度が、十分に伝わっていないのではないかと。
- ③生徒は日常的によくあいさつをしており、非常に礼儀正しい。これまでの評価を踏まえ、今後は小・中学生にも受け入れられる学校を目指してほしい。現在行っている取り組みをしっかりとPRし、生徒が活躍できる環境を整え、それを広く周知していくことが大切である。
- ④普通科サタデープログラムの「マネースクール」に参加して、お金の大切さや将来のマネープランについて、子どもに伝える術を教えてもらった。親として、こうした知識を子どもに伝えることができるようになり、大変有意義な時間を過ごすことができた。
- ⑤現在の学習指導要領に基づいた初めての大学入試が行われた。学力の二極化が進む中で、生徒たちが意欲を持って取り組めるよう、教育課程や評価について各教科で振り返りを行うことが重要である。教科ごとに具体的な評価基準を見直し、現在の取り組みを強化していくことで、生徒の学習意欲を高めてほしい。

3. まとめ

今年度は「地域との連携」を主な協議事項として、評価委員の方々から意見をいただいた。本校は地域社会とのつながりを強化し、生徒たちが地域の一員として成長するための取り組みを進めている。具体的には、地域住民との交流イベントである「岩短親子フェスタ」への参加や各種ボランティア活動が挙げられ、これらを通じて相互理解を深めることを目指している。地域の方々からの意見や助言を積極的に取り入れることで、より効果的な教育活動を実現しようと努めている。今後も地域との連携を深め、生徒たちが地域社会に貢献できる環境を整えていくことが重要である。